

◆病院の理念◆

社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに、良識ある人間性豊かな医療人を育成します。



新年のご挨拶―信頼に込める病院に―

病院長 花房 俊昭



療機関の先生方から、「高度な医療」が必要な患者様の診療についてご依頼をいただくことが多く、患者様の最後の砦として、高度かつ安全な医療を心掛けております。

新年明けましておめでとう

ございます。皆様と共に新たな年を迎えられましたことを、心より嬉しく思っております。

さて当院は、「ご利用いただく皆様方」「この病院で診てもらったよかったです」と心から感じていただけるよう、日々努力しております。とくに、地域の医

療連携拠点病院」の認定を厚生労働省からいただきました。最先端のがん治療を行うとともに、緩和医療にも積極的に取り組んでおります。その一環として、当院職員および地域の先生方を対象に「緩和ケア研修会」を開催し、緩和ケアに関

する研修を受けていただく機会を設けております。この度の地域がん診療連携拠点病院認定を機会に、今まで以上に新たな使命感をもって、地域の先生方と共に絶えず成長してまいります。

問題は、医療安全推進部で「つひと点検し、原因を明らかにして対策を講じております。当院は、これらの絶え間ない努力を通じて、来院される皆様の安全に最大限の配慮をしております。

存じますが、患者様が感染しないようにするための対策です

ので、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

私どもの病院は、皆様方から信頼をいただくことにより初めて成り立つものです。当院を

ご利用いただくすべての方々に信頼していただき、安心してご利用いただけるよう、本年も職員一同が力を合わせ、「心からの笑顔」をモットーに、笑顔のあふれる病院にしたいと考えておりますので、何卒よろしくお願

い申し上げます。

本年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう、心よりお祈りしております。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

チーム医療の充実「患者様と共に歩む看護を目指して」

病院看護部長 小野 恵美子



平成21年4月に看護部長を拝命後、以下の事項を重点に取り組んでまいりました。

1.安全・安心な医療、看護の提供のために他部門とのコラボレーションの強化

2.チーム医療の中で、看護の専門性を発揮できる看護師育成

3.フィッシュ哲学に学ぶ「生き生きとした職場風土の形成」

4.地域社会との連携

でございまして、その中で新型コロナウイルス感染症対策につきましては、各部門一致協力の下、発熱外来への対応、感染拡大に伴う職員の確保、病院外の医療機関、行政との連携を強化し、感染防止対策に力を注いでまい

りました。感染予防対策の一連の取り組みにつきましては、患者様をはじめとして職員の皆様にも、大変ご協力をいただきましたことを改めてお礼申し上げます。

看護師育成におきましては、より専門性を発揮できる救急認定看護師、嚥下・摂食認定看護師、皮膚排せつケア認定看護師の3人が新たに誕生いたしました。がん専門看護師を中心として、合計11名のスペシャリスト達が、がん相談支援センター、褥着対策チーム、緩和ケアチーム、NST委員会などのチーム医療の中で専門性を発揮しております。

地域社会との連携におきま

しては、シティマラソンの救護、市民公開講座、市の健康フェアなどでの講演や、看護相談を通して、皆様のライフサポートとしての役割を果たすべく努力をしております。また高槻市の夏祭りでは、法被、浴衣姿の200名あまりの看護職が、パレードに参加いたしました。このような機会を通して、看護部は市民の皆様と共に心を一つにして、地域と共に成長してまいりたいと思っております。

また看護部の理念であります「より資質の高い医療、看護を提供」するためには、職員一人ひとりが生き生きと働く職場風土の形成がきわめて重要であると考えております。

その根拠は、「看護の原点であるホスピタリティの心」と「看護職としての使命感」をもって皆様に信頼を得る「患者中心

の看護」の提供に努めてまいりたいと思っております。

昨年末には、病院正面玄関前に、本院に通院・入院中の患者様、地域住民の皆様、職員の皆様、学生の皆様方へ、冬の夜空を明るく灯すことで心温まる癒しと、安らぎを感じていただけるようにイルミネーションを設置していただきました。

平成22年も、病院長主導の下「安全・安心な患者中心の看護」が提供できるよう、他職種との協働を強化し、看護職員一人丸となって取り組んでまいりたいと思っております。

今後ともより一層のご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう、祈念いたしております。

情報

報

コ

一

ナ

一

イルミネーション点灯

平成21年12月1日、当院にとって初めてのイルミネーションが点灯いたしました。病院正面玄関ロータリーにある11mのヒマラヤスギ2本にはロープライト各20本、その周りにはサンタなどのキャラクターモチーフが取り付けられました。電球の数は約20,000個使用しておりますが、地球温暖化対策を考え、環境にやさしいED電球を使用しております。



阪神タイガース岩田稔投手が来てくれた!

糖尿病と闘いながら活躍する阪神タイガースの岩田稔投手が、昨年に続き12月13日に、闘病中の子ども達を励ますために小児病棟(65病棟)を訪れ、「病気になる前となった後で変わったことは?」との質問に「できることは自分でやって(周りに)迷惑を掛けないように考えるようになった」など、子ども達やその家族からの質問に答え、みんなで楽しいひと時を過ごしました。



シリーズ 治療の最前線

循環器疾患における最近の診断、治療と先進医療

循環器内科I 北浦 泰



循環器疾患の主なものに高血圧症、冠動脈疾患、不整脈、そしてこれらの結果起こる心不全があります。当科ではこ

れらの心血管疾患に対して先進医療を含む高度かつ安全な医療で対応しています。まず高血圧症ですが、その90%以上が遺伝的素因による本態性高血圧症です。最近

遮断薬(ARB)や変換酵素阻害薬(ACEI)、カルシウム拮抗薬などがあり、これらの薬剤は副作用が少なく、血圧を下げるのみならず、それ自身にも臓器保護効果があります。しかし、わが国の高血圧治療を受けている患者様の約半分が降圧目標を達成できておらず、治療が必要であるのに放置している患者様もおられ

ます。このような方は受診して、ぜひ正しい血圧のコントロールを受けてください。次に、冠動脈疾患について述べます。冠動脈疾患は狭心症、心筋梗塞に代表されますが、近年の診断・治療の進歩により死亡率30%以上であった急性心筋梗塞は、ほとんど死なない病気になりました。その理由は、冠動脈造影が普及

し、狭い所や詰まっている所をカテーテルで掘けたり通したりする経皮的冠動脈治療(PCI)が可能になったためです。しかし、PCIは急性心筋梗塞発病早期に施行しなければ良い成績が得られていません。心筋梗塞の主な症状は圧迫感や絞扼感を伴う胸痛で、持続時間が20分を超えれば可能性が高いため早急に受診してください。最近ではPCIにステントという形状記憶合金を使うためその後の成績が良く、特に薬を染み込ませたステント(薬剤溶出性ステント)は再び詰まる量が少なくな

り、素晴らしい成績を挙げています。冠動脈疾患の診断は、これまで症状・心電図により行われてきましたが、冠動脈造影により正確かつ詳細な診断が可能になりました。しかし、冠動脈造影はカテーテルを動脈に入れるため患者様に負担をかける欠点があり、健診には不向きでした。最近、カテーテルを入れなくても造影剤を点滴するだけで冠動脈を評価できる冠動脈CT(MDCT)が開発され、当科では外来で冠動脈疾患の診断と評価、経過追跡などに重宝しています。

不整脈ですが、これまでの治療は薬剤によるもので満足する効果が得られていません。そこで、最近ではカテーテルによる電氣的焼灼術が用いられるようになりました。これにより発作性上室性頻拍症、WPW症候群など多くの不整脈がほとんど根治できるようになりました。また、突然死の原因になる心室細動も植え込み型除細動器(ICD)により安全に対応できるようになっています。

最後に心不全ですが、慢性心不全の経過は癌より悪いとされています。治療には利尿薬、β遮断薬、血管拡張薬などを用いますが、これらの薬物治療でもコントロール不可能な難治性心不全には両心室ペーシングという方法があり良好な成績を収めています。このように、重症心疾患も的確に対応すれば完全治療や良好な経過が期待できる時代になりました。かかりつけの先生と相談のうえ気軽に大学病院をご利用ください。



市民公開講座

第3回 平成21年 6月20日

「なんでも食べたい!」
「どだい無理な(話)歯無し!」

インプラント治療について
体の健康は歯・口の健康から

歯科口腔外科

島原 政司



日本は世界一の長寿国になりました。このことは国民一人ひとりの努力によるもので、すばらしいことです。しかし長生きしたいけれども、食べ物が美味しく食べ

られない。体の健康を保つことができなければ困ります。自分の歯が健康であればなんでも噛むことができ、なんでも食べられます。歯がなくなっても噛める入れ歯を使用している人は、健康な人とほとんど同じ食事をすることが出来ます。噛める入れ歯を入れている人は、もともと歯が健康であった人がほとんどです。口の中を不健康にして歯が無くなり、その結果入れ歯を入れて「なんでも食べたい」と言われても、「どだい無理な(話)歯無し」です。したがって、日頃から口の中を健康にしておくことが必要です。

最近、インプラント(人工歯根)が注目されています。インプラントの材料も顎骨に親和性のある材料が開発され、良い成績を収めています。しかし、すべての人が適応症とはなりません。



インプラント治療を行うには、健康な顎骨が必要です。う蝕や歯周病が多くあり、これを治療しないで放置しておく顎骨は、痩せて不健康となり、インプラント治療は不可能となります。したがって日頃から口の中の健康に留意し、その結果歯が無くなった場合に、インプラント治療を行った時には「なんでも食べられ、無理な(話)歯無し」ではなく「なりませぬ」。

統計によると、歯が無くなり物が噛めなくなると、外出しないう、寝たきりになるなどが増加し、一人でもなんでもできる人が少なくなります。日頃から口腔の健康に留意することが必要です。

第4回 平成21年 9月5日

寝たきりにならないための
リハビリテーション
のすすめ

リハビリテーション科
佐浦 隆一



寝たきりの原因と運動の効果

平成16年の国民生活基礎調査によると65歳以上で介護が必要となった原因は、脳卒中26%、高齢による衰弱16%、転倒・骨折11%、関節疾患11%などとなっています。一方、最近の調査から毎日1万歩以上歩いている人は、運動をしていない人に比べて

長生きできて、脳卒中や心筋梗塞にならず、生活習慣病にもかかりにくくなることが分かっています。

また、厚生労働省も運動の強さと時間を考慮したエクササイズ(Ex)という単位を定め、健康維持のための運動の重要性をアピールしています。具体的には1Exとは15分程度の早足歩行に相当し、腹囲を1cm縮めるには1週間に10Ex以上の運動が必要です。ちなみに毎日1万歩歩くこと、1週間あたり35Exの運動量に相当します。

寝たきりにならない(させない)ために毎日、立ち上がる(立ち上がりさせる)、歩く(歩かせる)ことを心がけてください。

寝たきりにならない(させない)ために毎日、立ち上がる(立ち上がりさせる)、歩く(歩かせる)ことを心がけてください。

寝たきりにならない(させない)ために毎日、立ち上がる(立ち上がりさせる)、歩く(歩かせる)ことを心がけてください。

第5回 平成21年 11月7日

新しい心肺蘇生を
学びましょう

救急医療部
西本 泰久



11月7日に、臨床第1講堂で開催された市民公開講座で「心肺蘇生」の講義を行いました。

最初は、森田 大教授の現場に「居合わせた人が行う心肺蘇生法の重要性」のお話があり、引き続き、小林正直講師と医局

員一同の指導による1人1体の簡易型蘇生トレーニング人形を使用しました。ご参加された皆様は大変熱心に実習をされ、蘇生人形から正しく胸骨圧迫ができたという合図のクリック音もしっかり聞き取れました。また、AEDを使用している電気ショックの実習でも、生懸命DVDの音声や動画に合わせて操作をされていました。

実習が終了したときには、多くの方から「自信をもって心肺蘇生法とAEDの操作が行える」という答えが返ってきました。

アンケート結果でも、多くの皆様に「実習ができてよかった」とお答えいただきました。

市民の皆様は心肺蘇生法を知っていただくために、このような講習会は非常に重要だと感じられました。これからも、救急医療部としてこのような機会を捉えて、心肺蘇生法の普及啓発に努めていきたいと感じています。